

毎日jp

愛媛

親より先に逝かないで AEDを三女の母校に 愛媛

交通事故で娘を亡くした四国中央市三島中央4のタクシー会社社長、宇田直器さん(62)がこのほど、AED(自動体外式除細動器)を娘の母校3校に1台ずつ寄贈した。

昨年2月、宇田さんの三女公子(たかこ)さん(当時27歳)はオートバイ運転中の事故で大阪市内で亡くなり、多くの友人らが弔問に訪れた。幼い子どもを連れた弔問者も多く、「先に子どもを亡くす悲しい思いを親たちにさせたくない。子どもたちの救命救急に役立ててほしい」とAED寄贈を思い立った。

AEDは市立三島小学校、三島西中学校、県立三島高校の体育館に設置。市教委などが「宇田さんの思いを児童生徒にも伝えたい」と公子さんの名前が入ったシールを張った。三島小の担当者は「校舎にはAEDが一つあるが、プールと隣接した体育館にも設置できたのは心強い」と感謝。宇田さんは「今でも涙が止まらなくなることがあるが、寄贈を喜んでいただき本当に良かった。すぐ手の届く場所に配置し、大切な命を救ってほしい」と話している。【蜜石まどか】